

# 格闘技・陸上・野球部門、ゴーゴーカレーのYouTube 番組の紹介

校長 中村 成希

「トップアスリート育成コース」、食育行事「八洲学園ゴーゴーカレーの日」でお世話になっている「小比類巻貴之先生（格闘技部門）」、「石毛宏典先生（野球部門：2024年開校予定）」、「譜久里武先生（陸上部門）」、「株式会社ゴーゴーカレーグループ」の最新YouTube番組をご紹介します。

格闘技部門総監督 小比類巻 貴之

K-1 WORLD MAX 日本代表決定トーナメント 3度優勝の元K-1王者



【ザマッチ】レオナペタス vs 中村寛のずばり試合予想！ ... 井上尚弥 vs ドネアを現地観戦したら感極まった。



[https://www.youtube.com/channel/UCt3fCg8q0MBn4hc\\_UTEdK5w/featured](https://www.youtube.com/channel/UCt3fCg8q0MBn4hc_UTEdK5w/featured)

アスリート工房代表 譜久里 武

世界マスターズ陸上 2018(スペイン) 400mリレー金メダル



<https://www.youtube.com/c/%E8%AD%9C%E4%B9%85%E9%87%8C%E6%AD%A6/featured>



オリンピック選手 寺田明日香選手 高野大樹コーチの... 寺田明日香選手 &高野大樹コーチ小学生 ...

野球部門総監督 石毛 宏典

元プロ野球選手(内野手) 西武ライオンズ→福岡ダイエーホークス (現役通算=16年)



【超速報】根尾昂の投手転向決定！石毛が語ります 【速報】ヤクルトが交流戦優勝！優勝の要因を石毛が徹...



<https://www.youtube.com/c/%E7%9F%B3%E6%AF%9B%E5%AE%8F%E5%85%B8TV/featured>





【お店をめぐる旅①】不定期連載企画! ただ小型カメラを...



【世界初公開】NYに金沢カレーを広めたレジェンドMr....

<https://www.youtube.com/channel/UC1vkTl8tfiMQBURZcwnSxdw/featured>

## 「ロシアにバレエ留学をしていた生徒さんの新聞記事」のご紹介

校長 中村 成希

バレエ留学でロシアに行っていた「清水理央さん」の事が朝日新聞に載っていましたのでご紹介します。【朝日新聞社提供：令和4年6月13日朝刊記事】

# ロシアバレエ留学 戦禍で一転



帰国後も練習に余念がない  
清水理央さん＝四日市市

四日市市で生まれ育ち、体の動きを筋肉に染みこませ、2歳からバレエを学んだ。国内コンクールへの出場を重ね、いつしか世界で通用するプロのパレリーナを夢見るようになった。

2019年10月にロシアのパレエ学校に留学。昨年9月には念願がかない、著名なパレリーナを何人も輩出したサンクトペテルブルクの名門、国立「ワガノワ・バレエ・アカデミー」への入学が認められた。

不慣れたロシア語との格闘。時に夜まで続く練習。それでも、毎日が充実していた。以前はできなかったことに戦う」と帰国した。

四日市市で生まれ育ち、体の動きを筋肉に染みこませ、2歳からバレエを学んだ。国内コンクールへの出場を重ね、いつしか世界で通用するプロのパレリーナを夢見るようになった。

2019年10月にロシアのパレエ学校に留学。昨年9月には念願がかない、著名なパレリーナを何人も輩出したサンクトペテルブルクの名門、国立「ワガノワ・バレエ・アカデミー」への入学が認められた。

不慣れたロシア語との格闘。時に夜まで続く練習。それでも、毎日が充実していた。以前はできなかったことに戦う」と帰国した。

四日市市で生まれ育ち、体の動きを筋肉に染みこませ、2歳からバレエを学んだ。国内コンクールへの出場を重ね、いつしか世界で通用するプロのパレリーナを夢見るようになった。

## 「ワガノワ・バレエ・アカデミー」から帰国

3月15日の夜、ロシア・サンクトペテルブルクのプルコボ空港を離陸したトルコ行きの飛行機の窓から、半年余りを過ごした街の夜景が見えた。「自分はほっとしているのだろうか。それとも、ここを離れたくないと思っているのだろうか」。清水理央さん(16)の心は揺れていた。

### 四日市の清水理央さん(16)

四日市市で生まれ育ち、体の動きを筋肉に染みこませ、2歳からバレエを学んだ。国内コンクールへの出場を重ね、いつしか世界で通用するプロのパレリーナを夢見るようになった。

2019年10月にロシアのパレエ学校に留学。昨年9月には念願がかない、著名なパレリーナを何人も輩出したサンクトペテルブルクの名門、国立「ワガノワ・バレエ・アカデミー」への入学が認められた。

不慣れたロシア語との格闘。時に夜まで続く練習。それでも、毎日が充実していた。以前はできなかったことに戦う」と帰国した。

四日市市で生まれ育ち、体の動きを筋肉に染みこませ、2歳からバレエを学んだ。国内コンクールへの出場を重ね、いつしか世界で通用するプロのパレリーナを夢見るようになった。

## いつか戻る 平和待ち望み練習

清水さんは、戦争という、自分の力ではどうにもならない現実と直面した。3月7日、日本政府が、今後の出国手段が限られることなどを理由に、ロシア全土の危険情報を4段階のうち2番目に高い「レベル3(渡航中止勧告)」に引き上げ、企業の駐在員の帰国も加速した。清水さんを含め、7人いた日本からの留学生も、卒業が近い1人を除き、帰国を決めた。「まさかこんなに間近なところで戦争を体験することになるなんて、思いもしなかった」。平和がいかにありがたいものなのかを実感した。

愛用していたトレーニング用具のいくつかは、あえて学校に置いて来た。いつか平和が訪れたら、必ずワガノワに戻るとの意思表示として。「いまの自分のできるのは、その日が来るまで、力量を絶対に落とさないこと」。帰国後、清水さんは市内のバレエスタジオを拠点に、毎日5、6時間の練習を続けている。

8月には、5年ぶりに地元四日市市文化会館で舞台に立つ予定だ。ロシアで学んだ「くるみ割り人形」の一場面などを踊る。(黄激)